

会 議 記 録

会議名称	町民懇談会（八幡地区）
開催日時	令和6年11月22日（木）19：00～20：20
開催場所	八幡コミュニティセンター
出席者	参加者：13名 町：町長、副町長、遠藤庁舎整備課長、佐藤庁舎整備班長、松本主査

<会議内容>

・町長あいさつ

説明・懇談

・説明・・・新庁舎建設候補地の比較検討について

・懇談（座長：副町長）
（町民）

最初は現庁舎周辺に建設するという話だったと思うが、今の説明を聞くとそうではなさそうである。その辺りを説明してほしい。

（事務局）

新庁舎建設事業は平成29年から始まり、町民の皆さんによる新庁舎建設検討委員会が発足した。そこでアンケート等もとりながら場所の検討をし、建設候補地についての中間諮問答申として、現庁舎跡地周辺とした。それを受け、町でも議会へ議案を提出し、議会基本条例のもと、平成30年3月に可決いただいた。その後、事業を進めていたが、平成30年9月に町の財政上の理由で延期となった。延期中も調査・研究を行っていたところ、財政シミュレーションで新庁舎建設が可能と判断され、令和4年度に庁舎整備課を設置、再スタートを切った。その後、町民の方々より、「新舎建設候補地は、議決した平成29年、30年頃からすると社会情勢や町内の環境が変化したのではないか。そういったことから、現庁舎周辺も含めて再度建設位置について検討してはどうか。」というような請願書が出され、議会でも再検討という判断をし、町としても再検討することとなった。町民懇談会や様々なアンケートなどご意見を伺い、町として旧厚生病院跡地ということで一度方針を決めたが、現本庁舎跡地という議決が残っていることと、町民の皆さんとの議論がまだまだ足りないのではないかという話を受け、もう一度フラットな状態で懇談を行っていききたいということで、今現在このような形の懇談会を開催している。

11月18日から今日で3日目となる。忌憚のないご意見を頂戴しながら、まちとしての判断

材料としていきたいと考えているので、よろしくお願いします。

(町民)

具体的な説明を受けたのは今日が初めてなので、すぐに何かを申し上げることはできない。こういう懇談会が最終的に判断される材料となるという話だが、どの程度の位置づけとして考えているのか。

(事務局)

我々も様々な話を伺いたいということで、7地区で同様の資料を使い、ご意見を伺う予定。位置づけとしては、もちろん本日のような対面形式の懇談会は重要と考えている。特に参考としながら、この後の判断に繋げていきたい。

また、町民の方々の検討委員会のご意見や今回の懇談会で発言が難しい方は紙へ記入いただいたり、WEB上でも意見をいただいたり、様々な手法で多くご意見をいただく予定である。

(町民)

町民の方との話し合いは今後も設けるのか。

(事務局)

今後については、先ほどの説明でも申し上げたが、今回フラットな状態でご意見をいただき、それらを参考として町として候補地を絞っていく。その後は町の案に対し、もう一度懇談会にてご意見をいただくという、2段階方式で考えている。来年に開催予定である。

(町民)

1ページに庁舎の面積がでていますが、職員が168名とある。現在の会津坂下町の状況を国や県の指針に基づき算出した人数という認識で良いのか。

(事務局)

今現在の職員の人数である。新庁舎に入る課というものを想定しており、中央公民館の職員や保育所や幼稚園の職員は除き、会計年度の職員も合わせた168名としている。

もちろん今後の人数の経緯もあるかと思うが、町の定員適正化計画の中では、しばらく人数が変わらないとなっている。例えば急激に職員の人数が減るために、面積が小さくて良いということはないと考えて、このような形となっている。

(町民)

様々なマスコミやシンクタンク、本日の新聞にも人口について掲載してあったが、坂下町の推定人口も一説によれば15年で1万人をきるというようなデータも発表されている。そういった人口の推計の中で職員の人数も変動していくのだとすると、どの辺りの人口を想定して役場庁舎を作っていくのかということが大切だと思う。一度検討してほしい。今現在に合わせればちょう

どいい規模でも、10年経てば余裕が出始め、15年経てば余裕がある庁舎となるかもしれない。町長はじめ、町の施策では人口減少率をできるだけ抑えよう、人数を増やしていこうと日々取り組んでいるのは重々承知しているが、大きな流れとして人口減少というものはある程度見込んでおかなければならないと考えている。今の人数に合わせて設計して良いのか、今後検討してほしい。

(事務局)

新庁舎は50年、60年使用する建物になると考える。そうなった場合、職員の人数も減少していくことも見込まれる。今回の資料の規模は、現在の人数で計算しているが、各部屋の詳細な面積は基本計画で考えていくこととなる。基本計画の中では将来の人数も考えながら検討していきたいと考えている。

(町民)

町の職員も研究部会を立ち上げて、庁舎がどうあるべきかと考えているようだ。その報告をみると、「何かあれば役場へ」ということを若手職員は役場を作っていく上でのキーワードにしている。大事なことだと思うが、先ほどの説明にもあった役場の中に関連するもので、どういうものを盛り込んでいくのか。例えば中央公民館や坂下コミセンの話があったが、私はできるだけ集約し、何かあって相談に駆け込むとすればワンストップの方がいいとは思っている。将来人口も職員も減り、余剰ができた際は関連する諸団体、関係機関とどのようにまとまっていくかも踏まえて検討してほしい。

坂下町というのは、会津西部の大きな受け皿として残っていくべきだし、残ってほしいと思っている。その辺りも役場庁舎をつくっていく上では、西側の各市町村が何かあってこちら側という際は受け皿になり得るような中身の想定をした方がいいと感じている。

(町民)

今までの流れからすると、現庁舎を改築するのが一番と感じていた。しかし、後からの数年間の経緯をみると、手狭なのは大変だ。最近役場を利用するようになり、駐車場も狭く、役場庁内が色々と混み入っている部分を見たりすると、広いスペースの対応が可能であったり、駐車場も広がったり、機能集約できるような場所が一番望ましいのかと思う。建設費を全く無視するならば、候補地②や③が良いように感じる。

現庁舎をなくした場合、旧町内の活性化はどうなるのか。役場庁舎はない方が活用しやすいのではないかと。その辺りも検討しながら、移転地を決めてほしい。地区に住んでいる身としては、幹線近くで便利な場所が良い。

旧町内は役場庁舎がないと困るのか、その辺りも聞きたい。

(副町長)

市街地の部分は市街地の活性化に向けて懇談会を開いているため、そこでの調整もあるが、4ページでもお示しした通り、別の場所に移転した場合、空地をただ駐車場とするのではなく、町

内や町外の方も含めて町の活性化となる施設を設けたいと考えている。スペースを利用しながら、チャレンジショップや観光物産機能、イベントができるような機能も含めながら、ここに来れば坂下町のことが全て分かるような交流施設等々について検討していく。それについても建物を建てるには概ねの事業費で8億円ほどかかるのではと想定している。その施設が防災時にも活用可能なスペースとなれば、緊急防災債という有利な起債も借りることが可能となる。その部分も含めて総合的に判断していく。

(町民)

今までの顛末をずっと聞いていたが、数年前に議決されて現役場庁舎に立て直すとなっていたものが、よく分からないプロセスでひっくり返ったというのに違和感がある。議決がひっくり返ったとなるならば、議会とは何なのかという話になる。それに対し違和感があったため、今日来た。一度決まったものがどうして覆ってしまうのかが謎である。先ほどの経過の説明では、令和4年以降がよく分からなかった。その辺りがどのようになっているか知りたい。

候補地②が強いような感じがしている。しかし、配置計画の案では、敷地の半分を何も使わないとなっている。これはどのようなことなのか。何も使わないのであれば、ここである必要はないのではとも感じてしまう。土地の取得がという話もあるが、そもそも無理があるのではというのが正直な感想。

議決がひっくり返ったことと半分しか土地が取得できないことについて見解を教えてほしい。

(事務局)

令和4年以降の経過について、再度説明する。令和4年6月にまず町民の方から請願書が出され、それを受けて令和4年第2回の定例会において、議員提出議案ということで「会津坂下町新庁舎の建設場所について様々な現状を加味し再度協議することを求める意見書」が提出、可決された。その後、町では様々なアンケート調査や町民懇談会を開催し、令和5年2月に建設地を旧坂下厚生総合病院跡地とするということで建設場所を表明した。懇談会等々を行ったが、町民の方々より早急に決めずに、もっと議論するべきとの話を受け、再度懇談会を開催する等行ってきた。その後、令和6年に平成30年の建設場所について議決をいただいた議案の部分を、新庁舎建設については現本庁舎跡地周辺及びその他の候補地として議案の変更し、可決された。議会での経過をうけ、今回町民懇談会を開催している。

(町長)

候補地②の残敷地の話だが、旧厚生病院跡地の敷地は全部で2万3千㎡ほどある。しかし、役場庁舎として必要な面積を算出したところ、右側の空白となっている1万㎡は使用しないとなった。活用方法については検討をし、まだ確定も何もしていないが、団体や企業等に売買をアプローチしていきたいと考えている。その中にはJA 会津よつばも入っている。そういうこと、2億円で売却を想定と注釈をいれている。

仮にこの想定が叶った際には、お互いに防災の拠点とできるように、災害時は駐車場等々を共同利用するという協定を結びながら、アプローチ交渉をしていきたいと考えている。

(町民)

では、残敷地は農協に購入してもらう想定か。

(町長)

農協と確定はまだできない。あくまでも農協を含めたという考え方である。

なぜ農協なのかということだが、現在の農協坂下支店は川西、八幡、高寺支店が統合した経緯がある。今、若宮、金上、広瀬支店を統合するように農協で進めている。そのため、若宮、金上、広瀬支店は職員が週2回、まわって営業している状態である。昨年の農協総代会で、組織や施設の再編について決議された背景がある。それらを踏まえると、今の坂下支店は駐車場も狭く、移転するのかと考えるのは普通のことかと感じている。そのようなこともあり、農協も含めたという言葉を決段階では使わせてもらっている。無駄とするわけではなく、売却して使用いただくという考えである。

(町民)

もう一度聞くが、平成30年に議会で可決したことがなぜひっくり返るのか。議決ということの重さについては、どのように考えているのか。議決がひっくり返るのであれば、なんでも良くなる。議会に意味があるのかという話になる。どこにつくるのかというよりは、そちらにとらわれてしまっている。

(副町長)

一度議決したものの取り消しは通常できない。その案を補強していくには、案に上書きをすることとなる。今回は議員皆様の総意により、前回の議決である現庁舎周辺も含めた中で町全体の敷地、適地を見直しながら、検討してみてもという意見をいただいたので、町全体をもう一度再検討の土台にあげましょうということで、令和6年時の議案は現庁舎跡地周辺及びその他の候補地と上書きをした形となる。それを議決いただいた後、町で候補地としての要件に合致している場所を選定し、皆様よりご意見を頂戴したいと進めているところ。

(町民)

令和4年6月の請願により動き出したということか。

(副町長)

令和4年6月の意見書により現在の方針となった。ある程度時間も経過し、当時の庁舎の起債等々も含めて全て変わっている状況のため、もう一度検討が必要ではないかという議会からの意見書も踏まえて、令和6年6月に議会基本条例に基づき議案を提出し、議決をいただいた。そして、候補地を選定し、町民皆様のご意見をいただいているという流れ。

(町民)

この請願というのは、どのような団体から出されたものか。それとも個人から出されたのか。

(副町長)

団体である。

(町民)

その団体は現存しているのか。

(副町長)

今確認はできていない。

(町民)

言葉は悪いが、思いつきに乘っかっているように感じられる。

(町長)

現庁舎の跡地周辺で一度議決している。その後、意見書が議決された。我々は議決事項を尊重し、動くわけだが、議決事項が2つある状態であった。どちらかひとつを無くすということではなく、双方を生かすとなると立ち行かなくなる。その点については我々も検討を重ねた。2つの議決がどちらも成立しているのであれば、現庁舎跡地周辺にその他の候補地という言葉は足し、再度スタートから皆さんと懇談し、考えていきましょうというのが今回議決していただいた内容である。

(町民)

現庁舎の駐車スペースは来庁者用で何台分なのか。

(事務局)

現庁舎前で15台程度、東駐車場は57台ある。

(町民)

現在は57台でも不足している感じか。

(事務局)

東駐車場には一部公用車も停めている部分もあるが、そういうこと含めて役場前と東駐車場が満杯になり、線のないスペースに何台も停めているという現状はある。

(町民)

資料を見て、駐車場が大事だということのもわかるが、建物も駐車場もそれほどいらない時代が来

るのではないかと考えている。それらも加味し、駐車台数も考えるべきである。

私は雪が好きではないので、屋根もついていない駐車場は好きではない。だからと言って、ここにつけてほしいということでもない。庁舎の1階部分半分でもいいので、駐車スペースとしてはどうか。その分、建物の面積が広くなったり、高くなったりとはあると思うが、そういう形がいいのではないかと考えている。来庁者の中で、足が不自由な方も雪の場所を歩かずに入ることができる。1階を総合案内とし、2階以上を役場とするのもいいのではないかと。駐車場のスペースとして、外に作らなくてもよくなる。地下に作るとお金がかかる。

資料をみると、雪に対することが書かれていない。温暖化とはいえ、大雪が降った際にも来庁者が来やすいようにしてほしい。例えば車一台分だけでもいいから、ロードヒーティングをいれるなど。そのようにすれば、雪を気にして出なくても良いし、庁舎から外に出た時にたまたま雪が降っていても雪を気にせずにすぐに出られる。

こういう会議に出席される方は高齢の方が多い。もう少し若い人たちの意見を聞いてほしい。特に若い女性の意見が聞きたい。そういう方たちは、はちゃめちやな事を言う時もあるが、それが未来となっている時もある。小さなことでもいいので、役場から接触を設けて、意見を出してもらう。最終的にお金のことも出てくるわけだが、お金のことを考える前に、色々な意見を聞いているとより良い庁舎像ができるのではないかと。

庁舎を建設した後、俵引きや福豆俵まきをどこでやるのかと考えた。それもわざわざ役場庁舎ではなく、別な場所をもって今後は行っていくということでも良いのではないかと。

(事務局)

私も同じように考えている部分も多々あった。駐車場の話があったが、大切であると考えている。敷地の配置を行う場合には、台数も含めて慎重に考えていく。広ければいいということでもないで、検討する。

消雪等の雪対策に関しては、屋根をつけることも難しく、庁舎の1階部分を駐車場とするにも2階以上の面積も増やさなければならない。その辺りはコストも見ながら、ケースバイケースで考えていく。高齢者や身体的に不自由な方に対しては、庁舎へのアプローチとして、思いやり駐車場だけに屋根をつける等様々な手法を基本計画や基本設計等で考えていきたい。

若い人の意見は重要と我々も認識している。昨年、これから何十年も役場を使う若い方々へ、アンケートをとらせていただいた。様々な意見をいただいたので、今後参考にしていきたい。

(町民)

できれば、49号線等大きな道路に建てた方が将来的には便利かなと思う。町中もいいのかもしれないが、災害時にくるであろう大型重機も入れないと思う。災害のことも考えると、南幹線や49号線沿いに建ててもらった方がありがたい。赤べこの裏等に建ててもらった方がいい。

(町民)

議論に水を差すような話をして申し訳ないが、10年迷走しているものを3月の議会までにまとめようとしていることは難しいと思う。

先日、ある協議会の関係で浪江町の方が30数名来庁され、16～7名程で対応した。中央公民館が開いていなかったため、健康管理センター1階で会議を行った。机を出したところ、ガムテープや養生テープが貼ってあったため、これでは駄目だということで、はがし、透明テープで補修をした。ブラインドも壊れていたため、あげて見えないようにしようとしたところ、上がらず、暗くなるがカーテンを引き対応した。町民の健康管理をする場所であるのに、予算がないということで備品関係も整備されていない。そこに、事業費40億円、備品関係1億5千万円となれば、町民の方を向いているのかという気持ちになる。

庁舎建設は迷走しているが、本当に町民の方が要望しているのは、町民体育館もない中で、人が多く集まれる場所の確保というのが最優先なのではないか。旧町民体育館を壊す際、お金がないということで、建設計画をのせず、人が集まれる場所というものを意識しないできてしまった。これから異常気象の中、線状降水帯がどこで発生してもおかしくない状況がある。気多宮は地滑り地帯もあり、八幡コミセンは断層の上である。断層もこのご時世、絶対動かないということもない。いつ、どこで、どのような災害が起きて、避難所にしなければならないという時に、町はどのようにして一時避難、二次避難の確保を行っていくのかという計画をきちんとだし、そして町民体育館を冷房付きで整備するべき。そういう防災意識を高めてほしい。庁舎も大事だが、優先順位は町民体育館の建設が一番かと思う。